

東日本大震災復興支援
がんばろう福島！福島の人

米倉兌・廣長威彦展 開催中！

現在、角館町平福記念美術館では、福島出身の画家2人の展覧会を開催しています。

故米倉兌先生は福島市出身。廣長威彦先生は郡山市在住で現在も精力的に制作活動を続けています。

両先生の作品併せて約120点、常設展示室を除くすべてのスペースを利用して展示しています。米倉先生は墨彩で描く福島の伝統行事、中国の風物、京の風情といった作品を中心に、廣長先生は版画、油彩、水彩で描く全国各地の家並みや角館をテーマにした作品を展示しています。

この機会にぜひ美術館で両先生の味わい深い作品をお楽しみください。

- ▼会期／9月10日(月)まで(会期中無休)
- ▼時間／9時～17時(入館は16時30分まで)
- ▼入館料／仙北市民は無料
- ▼問合せ／平福記念美術館 ☎(54) 38888



廣長威彦 「待春/会津西街道大内宿」 版画



米倉兌 「うぐいす/京第一輯」 墨彩

介護保険事務所からのお知らせ

要介護認定から 介護保険のサービス利用まで

要 介護認定の申請をして、「要支援1・2」「要介護1～5」のいずれかの認定を受けた方は介護保険のサービスを利用できます。

【問合せ】

介護保険事務所 認定審査班 ☎0187-86-3912
仙北市長寿支援課 ☎43-2281
仙北市包括支援センター ☎43-2283

●「要介護1～5」と認定を受けた方

- ▶「施設サービス」を利用したい場合
入所を希望する施設に直接申し込むことになります。
※「要支援1・2」と判定された方は利用できません。
- ▶「在宅サービス」を利用したい場合
 - ①「居宅介護支援事業所」へ連絡して、ケアプラン(居宅サービス計画)作成を依頼します。
※「居宅介護支援事業所」は介護保険事務所ホームページ(URL <http://www.oskaigonet.or.jp/>)または市・町窓口・介護保険事務所にある一覧表でご確認ください。
 - ②担当のケアマネジャーにケアプランを作成してもらいます。適切な介護サービスを利用できるように相談しましょう。
※サービス提供事業所との連絡・調整はケアマネジャーが行います。
 - ③ケアプランにそって「在宅サービス」が始まります。

●「要支援1・2」と認定を受けた方

- ①はじめてサービスを受けられる方は「地域包括支援センター」へ連絡して、介護予防ケアプラン(介護予防サービス計画)作成を依頼します。また、これまで介護サービスを受けていた方で「要支援1・2」と認定された方は担当のケアマネジャーに相談してください。
- ②担当のケアマネジャーに介護予防ケアプランを作成してもらいます。適切な介護予防サービスを利用できるように相談しましょう。
※サービス提供事業所との連絡・調整はケアマネジャーが行います。
- ③介護予防ケアプランにそって「在宅サービス」が始まります

まちづくり 日記

No.44

『医療を守る③』

仙北市長
門脇 光浩

仙北市医療局(平成23年1月開設)は、別々に運営してきた市内公的医療機関をお世話し、連携を橋渡しする組織です。今後は医療スタッフの人事、薬価経費の削減や医師確保などに取り組みます。この新組織に魂を吹き込む人材、病院事業の管理者として、同年4月、宮川信医師(長野県飯田市出身)をお迎えしました。

着任前に何度もお会いしていますが、医療に対する情熱や患者への思いの強さなど、仙北市の病院事業管理者に最適と判断しました。全国自治体病院協議会の元副会長で、全国的なネットワークも持っています。この7月から角館総合病院に勤務いただいた常勤小児科医も、宮川管理者のネットワークの賜です。今後の活躍を大いに期待しています。

大金が必要な病院事業を行うのか。他の市に高度医療を受けられる病院があったら、市に病院はいらないんじゃないか…。まさにその答えが、自治体病院の存在意義と言えます。総務省がまとめた「公立病院改革ガイドライン」では、「自治体病院の役割は、端的に言えば、地域において提供されることが必要な医療のうち、採算性の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供すること」とあります。簡単に書き直すと、「どこで暮らしていても医療は必要です。でも人口が少なく患者数を確保できない地域で、民間医療機関で採算がとれない場合などは、地域医療を守るために、自治体病院が頑張りなさい」と解するところまであります。私は社会がどう変化しても、市として市民を守る医療の仕組みを確立しなければいけないと考えています。

《次号に続く》

かくのだてF・C ロケーション だより

東北6県で毎週土曜日の正午から放映されている情報番組「とうほく元気です!TV」、"パンチ佐藤の東北ダイナマイト!"のコーナーで、角館からの生中継が6月30日(土)行われました。照りつける陽射しのなか、殿さまあゆや地酒、鮎づきの料理、鮎に因んだお菓子などの紹介をしていただきました。また、撮影場所を移動する際には人力車に乗って、緑あふれるシダレザクラの下を走る映像が放映されるなど、夏の角館の魅力存分に引き上げていただきました。

さて、このコーナーのレポーターを務めているパンチ佐藤さん。元プロ野球選手のタレントさんであることは皆さんもよくご承知のことと思います。軽妙で洒落なコメントを連発しているテレビ画面の印象とは異なり、地元を紹介するため、休憩時間には、出演するエキストラの皆さんに気軽に話しかけたり、冗談を言ったりは笑顔を振りまいたり、テレビカメラ慣れしていない素人の緊張をさりげなく解きほぐしてくれています。

角館フィルムコミッション(仙北市観光課内)
☎43-3352 <http://kakunodate-fc.jp/>

